

令和2年度滋賀県環境審議会環境企画部会（第2回）概要

- 1 開催日時 令和2年（2020年）9月1日（火） 10時15分から12時00分
- 2 開催場所 滋賀県庁新館7階 大会議室
- 3 出席委員 石川委員、上村委員、岸本委員、坂下委員、櫻井委員（代理）、高橋委員、辻委員、西野委員、仁連委員、野瀬委員、前畑委員、溝江委員、南村委員、山田委員、吉原委員（以上15名）
- 4 議事
 - （1）第五次滋賀県環境総合計画の進捗状況の点検の方法について
 - （2）第三次滋賀県環境学習推進計画の実施状況について
 - （3）第三次滋賀県環境学習推進計画の改定について

【配布資料】

滋賀県環境審議会環境企画部会委員名簿、配席図

- 資料1-1 第五次五滋賀県環境総合計画の進捗状況の点検の方法について
資料1-2 「滋賀の環境2020（令和2年版環境白書）」原稿案
資料2 第三次滋賀県環境学習推進計画の実施状況（令和元年度）について
資料3-1 第三次滋賀県環境学習推進計画の改定について
資料3-2 第四次滋賀県環境学習推進計画（概要案）
資料3-3 第四次滋賀県環境学習推進計画（素案）
参考第三次滋賀県環境学習推進計画の実施状況について（平成28年度～令和元年度）
参考資料1 第五次滋賀県環境総合計画（概要）
参考資料2 滋賀県環境学習等推進協議会委員名簿

5 議事概要

（1）第五次滋賀県環境総合計画の進捗状況の点検方法について

○事務局から資料1に基づき第五次滋賀県環境総合計画の進捗状況の点検方法について説明。

委員

第五次滋賀県環境総合計画の計画期間は、2019年から2030年までということであるが、計画は既に完成されているもので、それを評価していくために、追加できる指標や新たな指標をつくる等といったことはできないのか。

事務局

第五次環境総合計画については、既に策定もしており、参考指標も一定設定してい

る。今回の評価に当たっては、既に設定してある参考指標をベースに、社会情勢の変化や環境問題の変化等により、追加もしくは削除すべき指標というものも出てくるかと思われるので、柔軟に対応していきたいと考えている。

委員

最近の情勢として新型コロナウイルス感染症がある。それによって社会システムがアフターコロナで変わるといわれますから、そういったものも少し環境学習等の中で指標として評価できるようなたちにされたらいいのではないかと。

他にも、気候変動の中で集中豪雨や大型台風等が既に影響しているという状況なので、河川の氾濫による倒木や河川への流木等の課題について、指標を追加しても良いのではないかと。環境リスクでは、昨今注目されているマイクロプラスチックの評価がひとつの課題だと思われるため、指標があってもいいのではないかと。循環型社会では、最近増加しているごみ発電といった指標を入れられると良いのではないかと。

部会長

第五次計画の策定段階では、温暖化対策について、県の基本的な方針が変わっていない段階であった。しかし、年初に知事が CO₂の排出を実質ゼロにする宣言をされ、県の方針として大きく変わってきているため、計画の中に具体化していく必要があり、温暖化対策部会で次の計画を検討している。

それから、マイクロプラスチックについても、計画策定後に県の取組をさらに進めていくという方針になってきているため、ご指摘のとおり指標として扱っていく必要があるのではないかと。

委員

第五次環境総合計画の内容については、必要に応じて見直しを実施と記載してあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で環境というのがものすごく変わっている。10年間ではなく、まず1、2年で一度見直さないといけないのではないかと。

OODA ループは今どうすることが一番良いかというように動くもので、PDCA ループは反省をきちんと行い実行に移るといふものであり、OODA ループの方が臨機応変で対応は早いというようにとらえている。今回、あえてPDCA ループからOODA ループにしようとしたのはどういった意図があるのか教えていただきたい。

事務局

環境総合計画は、各分野別の計画に関する方向性を示すもので、大きな流れや方向性を示しているものであり、現状を観察することが重要であると考えている。まずは、その観察ということに重点を置き、OODA ループの考え方を入れさせていただいている。ご指摘いただいたように反省ということも非常に重要であるので、定性的に文章にて評価を記載していく中で、反省点や改善すべき点に関して記載していく。

委員

評価の方法について、3つの観点（ア、イ、ウ）で点検するとあり、指標の表の10分野ごとに、ア、イ、ウが振り分けてあるが、1 - 2についてはイがない、2 - 3についてはウがない、3 - 3についてはアがない、4についてはアがないというように、各分野で点検したときに、欠けている観点というのが出てきている。全ての分野について関わる全ての観点で点検する必要はないのか。

文章での評価では、アとウだけが評価されておりイがないように思われるが、なぜイが抜けているのかということをお願いしたい。

事務局

10の分野ごとで見ると欠けている観点がある部分もあるが、最終的な評価については、もう一つ大きな柱の固まりをグループとして評価をさせていただきたいと考えている。その柱をグループとして考えた場合、3つの観点が揃うように設定しているが、もう少し精査が必要かと思われるため、検討する。

評価の書き方がばらついていて申し訳ないが、イに関しては、第1パラグラフで書かせていただいている。表現や評価の並べ方に関しては、もう少し理解しやすいような工夫をする。

部会長

3つの観点を導入したというのは素晴らしいことだと考えている。今までの計画では、環境に対する負荷を減らすところに重点があったが、第五次計画では環境と人間との適切な関係性を築くことを主要な目標にしており、自然と人間との適切な健全な関係性を築いていくという軸点の変化があった。そういったものを評価する指標として、「生態系サービスがもっと大きくなることを通じて人間と自然との健全な関係性を築いていこうということ」やこれまでも行ってきたことであるが、「人間活動による自然への負荷を減らしていくこと」、「自然資本をいかに造成していくかということ」この3つの点は非常に重要であると思われる。

先ほど、ご指摘されたように細かい施策だと3つの観点のどこかに重点を置いたものがあると思われるため、評価は大きなところで全体として行うしかないと思われるため、全体として評価できるのであれば、個別に指標が整ってなくても良いのではないかと考えられる。

委員

評価指標の案があり、どの指標であっても3つの観点すべてに含まれるのではないかとと思われるが、この案はどのような過程で選定したのか教えていただきたい。

事務局

指標の分類につきましては、極力大きな視点で捉え、比較的ウエイトが大きい、重いところで選定をさせてもらっている。

部会長

指標はそのものではないが、何か代表しているものを選んでいるという、そういう点はかなりあると思います。

事務局

ご指摘いただいた点について、本日、審議の場を設けさせていただいておりますが、この後も、指標の追加や削除について、一定期間ご意見のほうは賜りたいと考えている。

委員

普通、計画を策定すると定量評価が重要視されて定量目標を個別につくられる。その結果、その数値に目がいってしまい全体が見えなくなってしまうということがよくあるが、今回の点検方法については、定量目標を個別に設定された上で、総合した定性的な評価が盛り込まれているというところで、非常によく考えられていると思う。

全体の評価について、文章で書くと実際の評価軸である3つの観点との関連性がわかりづらくなるのが問題ではないかと思われるため、段落の最後にどの観点に関するものであるかという補足を括弧書きで付記されると読み手に伝わりやすくなり良いのではないかと思われる。

事務局

ご指摘いただいた点を踏まえて、書き方を工夫する。

委員

評価はどういったステージで誰が行っているのか。

事務局

今回、点検方法についてご審議いただいているところであり、この後、評価指標の設定の仕方や観点の設定の仕方等に関して、意見をいただきたいと考えている。いただいた意見を踏まえ、事務局で点検方法の最終案と4つの柱の評価、総合評価をまとめて、その内容についてご審議いただき、最終的な評価としていきたいと考えているため、評価をするのはこの企画部会の場ということで考えている。

委員

点検方法について、審議会で検討して、具体にはどのように進行されていくのか。

事務局

評価が定まったということになれば、環境総合計画の評価に関して『環境白書』に「環境総合計画の点検・評価」という欄を設け、県庁内はもちろん広く県民に向けてお知らせしていく。

事務局

新型コロナウイルス感染症等を踏まえ、計画をこまめに改定すべきとご意見をいただいたが、環境総合計画が目指している大きな目標は変わるものではなく、むしろ新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、計画の目指す方向にとってのメリットやデメリットを整理し、進行管理の中で反映するというかたちを考えているため、直ちに改定を行うものではないと考えている。当然ながら、計画の変更の必要な場合もあると思うが、今後も、審議会の中で、様々な情勢を踏まえ、議論は継続していきたいと考えている。

部会長

点検方法について、他にも意見等があれば事務局にメール等でお知らせいただければと思います。

(2) 第三次滋賀県環境学習推進計画の実施状況について

○事務局から資料2に基づき第三次滋賀県環境学習推進計画の実施状況について説明。

委員

指標の環境保全行動実施率については、事業をどれだけ行ったかということかと思われるが、新型コロナウイルス感染症の影響で事業ができなくなっている。

多賀町の教育委員会では、子供たちに様々な学習をしてもらっているが、現在は集まって何かを行うということではなく、自宅で何をしてもらおうか、何ができるかということを中心に進めている。そういったものは、指標の中に加えていくことができるのか。また、新型コロナウイルス感染症全体について、どのように考えているのか。

事務局

新型コロナウイルス感染症の影響で、ご指摘のように今年度は対面での環境学習が難しい状況にある。そこで、琵琶湖博物館環境学習センターでは、リモート環境での環境学習も推進していこうと考えている。今年度の当課の取組においても、人が集まるイベントを行うことが難しく、自宅で学んでいただけるように、例えば、立命館大学のキャンパスで行ってきた「びわ湖の日連続講座」の動画配信を行い、ご自宅で学んでいただく取組を進めている。

指標に関して、環境保全行動は、実際に外に出て行う清掃活動等のほか、自宅でできることもあり、様々な環境保全行動を意味している。

委員

自宅で行うものというのは、指標の数には入らないのか。

事務局

環境保全行動実施率はアウトカム指標であり、自宅での学習を含め様々な事業を促進することで、結果として県民の環境保全行動がどのような状況かを見ている。

委員

ギアモデルは重要な考え方であり、実際どのようにギアを回していくかというのは、気づく、学ぶ、考える、行動するということが社会につながることで環境教育の計画、環境学習推進計画の柱になっているが、柱と評価がどのように関連しているかよく分からない。前半でギアモデルの説明、後半で実施状況というかたちで、どの事業がギアモデルのどの部分に該当するか分かるように整理をすると、ギアモデルがもっと生きたものになるのではないか。

人育てでは、学ぶ、考える、行動するという部分が重要になり、計画の中に具体的な事業が挙げられているが、ここに挙げられている事業以外にも事業があるか分からず、ギアモデルが機能しているか分からない。

すべて当てはめることは難しいが、ギアモデルのどこにどの事業を当てはめるか工夫してまとめると、ネックになっている部分が見えてくるのではないか

事務局

いただいたご意見について検討させていただきたい。

委員

ギアモデルを見たときに、左のギアには4つの箱があり、右のギアには3つの箱があるが、この7つで事足りているのかと感じた。教育の観点から、学ぶ、考えるというものはとても似たものであるため1つにまとめることが出来るのではないか。

伝えるというものがギアモデルに入り込んでいけば、情報の提供やコミュニケーションのスキルを磨くといったことがうまく拾い上げられるようになっていくのではないか。

委員

学ぶと考えるというのは同じではないのではないか。学ぶというのはインプットであり、考えるというのはインプットしたものを自分の中で咀嚼して考えるということ。今の教育で一番欠けているのは考えるということである。学習はするが、考えることが難しいということで考えるということを追加したように記憶している。知る、学ぶということと考えるということは、全然別物であり、ステップが違うのではないかと考えている。

委員

学ぶと考えるというのは、1つにまとめることができるだろうというふうに考えており、考えた結果をアウトプットするという意味で、伝えるということがあるのではないかと考えている。

委員

びわ湖フローティングスクール事業と記載してあるが、気づいて学んだ子供たちが次にどんな事業につながり、考える、行動する、つながる、解決するというものまで行っているかというつながりが分からない。事業一つ一つがぶつ切れになっていて、気づくから解決するというところまで最後まで行った例というのがあったら良いのではないか。

事務局

記載している事業例は、気づくから学ぶというステップを回すための工夫として挙げているもので、一つの事業で最後まで完結するというものではない。

委員

気づくから学ぶにステップアップした子供たちは、次にどんな事業があれば学ぶが考えるになるかというつながりの事業は考えながら事業をやっておられるのか。

事務局

それぞれの事業の中で特にどこに重きを置いているかをここで表している。

委員

指標について、事業をどれだけ行ったか、登録件数をどの程度増やしたかとあるが、人材育成で「エコロシーガ」の教えてくれる人の登録件数が指標になっており、登録件数を増やすよりも、「登録者がどの程度活躍したか」や「ホームページをどれぐらい活用する人が増えた」、「事業への参加者がどれぐらい増えた」ということのほうが大切なのではないか。事業数より、各事業の参加者や参加者へのアンケートで、考えることや行動することにつながった人が何%（何人）増えたかという結果が分かると、実際の効果ももっと測れる。アンケート等を行うことは大変かもしれないが、どれぐらいの人が興味を示して参加し、意識がどの程度変わったか、行動したかということが測れるようなことになると良い。

低炭素社会に関する事業数が減少しており、滋賀県地球温暖化防止活動推進員の活動等の小さな活動は入っていないのではないかとと思われるが、そういった活動の効果は高いのではないかと考えられるため、活動が何回行われ、どれだけ参加者があったか、参加者アンケートで意識が変わったことが分かったというようなことを示せると、本当の効果が分かる指標になっていくのではないか。

委員

事業の対象者として、未就学児から成人までと記載してあるが、成人の分類は様々であり、事業者の方の環境学習というものは拾えないのか。

環境美化活動への参加者の減少が見られるというようなことがあったが、なぜ減少したのか分かっていれば教えていただきたい。

環境保全行動実施率はどのように実施率を出すのか教えていただきたい。実際に環境学習をした人が本当に行動に移ったかということやどのようにして測るかということが大事である。

環境美化活動への参加者が減っているということで、自分自身が何度か参加したが、ごみを拾っているだけなので、環境学習にはなっていないように思えた。気づきや学びのきっかけを提供できれば、次の行動につながる可能性も出てくるため、次につなげるという視点がもう少し欲しい。

事務局

事業者については、成人に含まれており、進行管理については、県が各部局で当該年度に行った環境学習に関する事業について、取りまとめを行っている。

委員

成人に含まれると、地域で集まって学習するというもの等がすべて含まれてしまう。そうすると、環境学習について全く違うものになるので、学びの場で誰が学んで、どのような効果があったかということをつかむには、分類が大雑把ではないかと考えられる。

事務局

美化活動の参加者数減少は、天候等にも左右される。具体的になぜここまで減少したのか把握できていないが、おそらく天候によるものではないかと考えている。

環境行動実施率は平成 29 年度までは県政世論調査を行い、平成 30 年度以降は県政モニターアンケートを行うことで把握している。

部会長

どういった項目で調査しているのか。

事務局

複数の質問がある中の一つとして、「環境保全行動を取っていますか」というような質問を設けて、数字を出している。

部会長

環境保全行動の定義は示さず、調査を行っているということか。

事務局

「清掃活動に参加」や「レジ袋をもらわない」といった例示を出しながら、環境保全行動を行っていますかというような設問を設けている。環境保全行動実施率について、各事業と直接つながっているというよりは、県政モニターの皆さんを対象に、「日頃、環境保全行動を行っていますか」という質問をさせてもらって、その推移を見ながら状況を把握している。

委員

本質とは違う指摘であるが、機械工学の専門としてギアモデルのイメージ図を見たときに、この図のとおり動かしても実は動かない。歯車のかみ合うところの大きさは一緒でないといけないので、できれば訂正した方が良いのではないかと。

(3) 第三次滋賀県環境学習推進計画の改定について

○事務局から資料3に基づき第三次滋賀県環境学習推進計画の改定について説明。

委員

この審議会の立場としては、協議会で十分に練られているということからすると、大きな立場で、積み上げていただいたものについての報告事項というように思われるため、そういった立場で見させていただきたいと考えている。

委員

計画の概要および本文に出てくるポンチ絵について、重点課題をつなぐ学習のイメージということで、重点課題が5つあるが、少なくとも5つの重点課題を明確にポンチ絵の中に盛り込んでおかないと、イメージに相違が出てしまうのではないかとと思われる。

減災や防災については計画本文を見れば、重点課題というかたちではないが、少し出てきているため、これらが入っていることは良いと思う。

委員

こどもエコクラブで様々なことを行って、12月初旬に発表会のようなものがあり、発表会に向けて1年間の活動をまとめてやっていこうと思っていたが、今年から、発表会は行わず、壁新聞だけを行うということを知り、トーンダウンしていると感じている。

事務局

発表会の中身を変えているのは、全国では公開発表がないということであり、壁新聞にさせていただいたという経過がある。希望の方は発表してもらおうというところは残しているため、発表していただくとありがたい。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、開催できるか不安な部分はある。

委員

発表はしてほしい。評価についてはランク付けというようなことはしないのか。

事務局

評価は壁新聞でさせていただく。

委員

第四次計画の中の重点的な取組で、「暮らし（生活様式）」というのが一つの課題に入っているが、環境学習というものは、環境学習を通して暮らしや生活様式、行動を変えることがベースではないかと思われるので、課題の一つというよりも一番下のベースに入れるべきではないか。全ての様々な課題に対する学習とその結果がベースとなって暮らし、生活様式が変わっていくところにつながらないといけないのではないかと感じるので、暮らしが入っているのは違和感を感じた。

部会長

日々の生活をどう変えていくかということなので、それもなるべく見えるように変えると良いのではないかと思われる。

委員

計画の中で、環境学習センターの役割が大きく書かれているように感じる。約10年前に環境学習センターで仕事をしており、当時から考えるとこんなに大きな仕事をできるような体制は整えられていなかったと思うが、現在は体制が整えられているのか。

事務局

所長1名と環境学習推進員が3名、事務の者が1名で、所長と事務は兼務であり、少ない人数となっている。

委員

ギアモデルについて、ギアの中心にある軸は地域への愛着 “近江の心” とあるが、ギアを回す力というのは何なのか。

事務局

軸はギアをぶれなくするためのものとして今回新しく入れさせていただいた。イメージ図もできるだけシンプルにつくっている。

部会長

モデルは現実の側面のどこかを強調するもので、環境学習推進計画で学ぶことを行動につなげていくということを中心にしているという意味で、このギアモデルを使っているのだと思われる。ギアモデルが環境学習全ての姿を表しているわけではない。環境学習の目標が変われば、違うモデルのほうが適切になるかもしれない。

現状、県の環境教育としては、環境学習計画としては、学ぶことを行動につなげていくというところに重点を置いているようですので、これでいいのかなと思われるが、位置付けが変わると、また変わるのではないかと思われる。

(以上)